**全国盲ろう者団体連絡協議会機関誌**

**第２０号**

**２０１７／０９／２０発行**

**発行**

**全国盲ろう者団体連絡協議会**

**連絡先**

**〒114-0034**

**東京都北区上十条１－５－１－１０４**

**電話兼FAX 03-5993-4396**

**E-mail taikyoku194tyakugan@ip.mirai.ne.jp**

**URL http://tarzans.sakura.ne.jp/jfdb/**

**口座**

**ゆうちょ総合口座**

**記号１２１７０　番号８５８２４０６１**

**名義　全国盲ろう者団体連絡協議会**

**機関誌の無断転載を禁じます。**

**全国盲ろう者団体連絡協議会（以下、「連絡協議会」という）**

**全国盲ろう者団体連絡協議会機関誌**

**＜目次＞**

**１　ご挨拶**

**２　連絡協議会　２０１７年度第１回役員会報告**

**３　全国大会分科会の報告**

**４　連絡協議会の活動報告**

**５　連絡協議会加盟団体**

**６　編集後記**

**１　ご挨拶**

**会長　　高橋　信行**

**初秋のみぎり、貴団体におかれましては、ますますご壮健のこととお慶び申し上げます。**

**さて、先日、岩手県花巻市で行われた全国盲ろう者大会に参加された皆さん、大変お疲れ様でした。今年もすばらしい大会でした。**

**ご準備頂いた北海道東北ブロックの友の会並びに関係の皆様、本当にありがとうございました。**

**開会式で協会の山下事務局長から説明がありました。**

**そして私からも一言ご挨拶をさせて頂きましたとおり、連絡協議会は、協会に協力して、全国大会の企画を担当することになりました。**

**これまで各ブロックが実行委員会を構成して、全国大会の様々なことを決めていましたが、これからは連絡協議会がその役割を担うと言うことです。**

**とはいえ、連絡協議会の役員だけで、大会の全てを決めてしまおうなどとは考えていません。全国の盲ろう者の皆様のご意見をお聞きしながら進めていきます。**

**皆様の積極的なご意見をお待ちしています。皆で力を合わせてすばらしい全国大会を作っていきましょう。来年度は千葉県の幕張メッセです。**

**引き続き連絡協議会へのご協力をよろしくお願い申し上げます。**

**２　連絡協議会　２０１７年度　第１回役員会報告**

**事務局長　　庵　悟**

**去る７月８日、東京都盲ろう者支援センターほか３か所をスカイプでつないで、今年度の第１回役員会を開催しました。**

**以下、協議内容を報告します。**

**日時：２０１７年７月８日（土）１６時～１８時**

**場所：東京都盲ろう者支援センターほか３か所（スカイプ会議）**

**出席者：高橋会長、大杉副会長、庵事務局長、関委員、渡井委員、川島委員、小松委員、福島顧問**

**内容：**

**１．来年度以降の全国大会について**

**(１)　来年度の大会**

**事務局より、以下の説明を行った。**

**・来年の全国大会は以下の日程と会場で協会が押えている。**

**日程…２０１８年８月３１日(金)～９月２日(日)**

**会場…幕張メッセ(千葉県)**

**※連絡協議会総会の年に当たる。**

**・従来のブロックごとの各友の会で実行委員会を構成する方法はやめる。協会と連絡協議会が共同で運営する。**

**・協会は、事務的な仕事、連絡協議会は、プログラムや進行など企画運営を担う。**

**・来年の大会の担当者を決めたい。**

**＜主な意見＞**

**・３日間の中で、総会を開催する。協会が赤字財政であること、参加者の負担が大きいことなどが理由である。**

**・今後、連絡協議会がこれまで実行委員会が担ってきたことを役員ＭＬを使って相談しながら進めていく。協会と調整しながら、大会プログラムを作っていく。大会担当者はその取りまとめを行う。**

**・全国の盲ろう者団体から意見を聞きつつ、皆さんにとって納得のいく全国大会を作り上げていく必要がある。**

**・連絡協議会にとって大事な仕事になる。来年の大会で実績をつくり、モデルを示す必要がある。**

**＜決定事項＞**

**・来年の大会の担当者は、高橋会長とする。**

**・岩手大会の開会式で、来年の大会について協会の山下事務局長の説明の後、高橋会長からも挨拶出来るよう協会と調整する。**

**２．今後の活動について**

**（１）ホームページ**

**＜主な意見＞**

**・ホームページをフェイスブックに移してはどうか。特別な知識がなくても更新作業ができる。**

**・フェイスブックを使って、連絡協議会のメールマガジンなどを載せてはどうか。**

**・フェイスブックを使っての情報公開は、盲ろう者にとってはハードルが高いのではないか。**

**・どういう人に見てもらいたいかがポイントになる。点字を使う盲ろう者にはまだ使いにくい。**

**・フェイスブックには、普通のページとモバイル用のシンプルなページがある。盲ろう者には後者の方を使えば、一般のホームページよりもアクセスしやすい。友達以外の誰でも見れる。機関誌等はリンクの形で掲載することができる。**

**＜決定事項＞**

**・フェイスブックによるホームページがどこまで可能か調査することとした。**

**(２)　要望活動**

**＜主な意見＞**

**・現在、協会が中心となって、通訳・介助員派遣制度の改正に向けての調整をしている時期なので、厚生労働省は除外して、それ以外の省庁を回るのがよい。**

**＜決定事項＞**

**・要望活動をするかどうかについては、岩手大会で出た意見を見てから、考えることとする。**

**３　全国大会の報告（連絡協議会担当）**

**去る８月１８日（金）から８月２０日（日）まで岩手県花巻温泉で開催された第２６回全国盲ろう者大会において、連絡協議会が担当した分科会の報告いたします。**

**第１分科会の報告**

**会長　　高橋　信行**

**第１分科会のテーマは「全国の盲ろう者の生の声を聞く①」で、平成３０年４月から新しく始まる盲ろう者向け同行援護について話し合われました。盲ろう者４９名およびその支援者が参加しました。**

**以下に協議内容のあらましを報告します。**

**(１)　新派遣制度についての説明**

**全国盲ろう者協会の山下事務局長より、新派遣制度についての説明がありました。要旨は次の通りです。**

**・新派遣制度は平成３０年４月からスタートする。**

**・現在の地域生活支援事業における派遣制度(以下「現派遣制度」とする)に加えて実施される。**

**・新派遣制度は個別給付の枠組みで実施されるものである。**

**・現派遣制度は、地域毎のルールで運用されているため、地域格差が大きいことが問題であった。**

**・新派遣制度のルールは一つだけなので、地域格差という問題は改善されることになる。**

**・現派遣制度の通訳介助員は、そのまま新派遣制度で通訳介助員として業務にあたることができる。**

**・現派遣制度で利用対象となっていた盲ろう者は、新派遣制度においても概ね利用できる見込みである。**

**(２)会場からの意見・質問**

**山下事務局長からの説明の後、会場からは以下のような意見・質問が出されました。**

**・海外へ渡航する際の通訳派遣に使えるかという質問があったが、現時点では、不明であること。今後、要望事項として検討することとなった。**

**・新派遣制度のルールは一つだが、実際の運用においては、各自治体で差が出てくる可能性についての質問があった。新派遣制度は50時間/月を国が負担、超過分を各自治体が負担する自治体の予算枠により、派遣時間の差が出てくる可能性がある。**

**・新派遣制度で地域格差をなくして欲しい、個人負担があるのはおかしいという意見があった。しかし、新派遣制度の枠組みである個別給付は、利用者が1割負担をするというのが国のルールで、この点について盲ろう者だけを特別扱いすることは不可能である。**

**・盲ろう者向けの同行援護(新派遣制度)を実施する事業所が沢山できて、盲ろう者が事業所を選択できるようになれば、全体の質の向上が期待できるだろう。**

**・現派遣事業においては、派遣事業の担当者の個人的なこだわりで偏った運営をしているとの指摘されているケースもあるが、新派遣制度ではこうしたことが起こりにくいだろう。**

**・盲ろう者向け同行援護のサービス提供者は，ヘルパーや視覚障害者向け同行援護のサービス提供者よりも高度な技術を要するので、報酬もそれなりに加算する必要がある。そうすると予算不足で派遣時間が少なくなる恐れはないかという質問があった。新制度の予算上に占める割合は、個別給付全体からみるとごくわずかであること、個別給付の予算は地域生活支援事業の予算のおよそ２０倍であることから、そのような心配はないと思われる。**

**・新派遣制度で通訳介助員が受け取る報酬はどうあるべきかについて協議された。個別給付の報酬は、一旦、事業所に全額支払われ、事業所はその中からサービス従事者に報酬を支払う仕組みである。盲ろう者向け同行援護の報酬は、「盲ろう者加算」により、視覚障がい者向け同行援護の２倍程度を要望していく。**

**・盲ろう者向け同行援護の事業を各地の盲ろう者友の会が実施できれば、友の会の財政的・人的基盤が格段に向上することが期待できる。各友の会はこのことを検討して欲しい。**

**(３)まとめ**

**新派遣制度は、来年の４月からスタートしますが未だ確定していない事項も多いようです。今、要望できることはきちんと要望していきましょう。新派遣制度を活用するためには、制度について正しく理解しておく必要があります。特に現派遣制度と新派遣制度の各々の長所短所を踏まえた上で上手に活用することが重要だと思います。**

**さらに、友の会が盲ろう者向け同行援護の事業所を設立して、事業所運営を行うようになれば、財政的・人的な基盤の向上が期待されます。是非、各友の会はこれについての検討をお願いしたいと思います。**

**第３分科会の報告**

**副会長　　大杉　勝則**

**テーマを自由にした、「全国の盲ろう者の生の声を聞く②」の分科会を行いました。**

**参加者は、盲ろう者３７名を含めて約１２０名。**

**日常生活や制度などで日頃から思っていることを出し合い、意見交換をしました。**

**出された声は、以下のようにたくさんありました。**

**みんなで情報共有し、お互いに理解し合うことができたと思います。**

**・日本版ヘレン・ケラーナショナルセンターについては、どこまで取り組まれているか、知りたい。**

**・大きな点字のブレイルセンスを造ってほしい。**

**・手話を使っている盲ろう者として、手話のＩＴ化をすすめてもらいたい。**

**・手話を使う盲ろう者、通訳介助者とスムーズに通じ合える触手話の研究を進めていきたい。全国協会、連絡協議会、ヘレン・ケラーセンターとつなげて、研究にも力を入れてほしい。**

**・県から委託を受けている事業のほかに、来年から新しい盲ろう者向け同行援護事業を取り入れるとしても、先延ばしできるのか。**

**・うまく発声するのが難しいろうベースの盲ろう者も盲導犬を利用できる方法はないか？**

**・来年の全国盲ろう者大会はどうなるか？**

**・盲ろう者の掘り起こしに悩んでいる。**

**・盲ろう者の職業のひとつ、マッサージ師の仕事をなくさないでほしい。**

**・新事業が加わることで、２つの派遣が増えるが、県からお金が使われるのか。**

**・派遣事業をひとつにして、簡単にしたほうが良いと思う。**

**・身体障害者手帳１級を持っていて、乗車券だけではなく、新幹線の特急券も半額割引にしてほしい。**

**・iPadなどを使い、浮き出て読み取れるというようなものができると良い。**

**・触感振動式信号機を普及してほしい。**

**・盲ろうむけロボットを開発してほしい。**

**以上です。**

**今後も、みなさんとともに盲ろう者福祉の向上に向け、こつこつと取り組んでいきたい、また、来年も語り合いたいと思っています。**

**全体会の報告**

**委員　　関　厚博**

**全体会では、各分科会、開会式、歓迎パーティー、社会見学、映画上映とすべてのプログラムの報告をしていただきました。それぞれの分科会の担当者より、一人3分程度にまとめて発表し、そのあと、司会から簡単にコメントしました。**

**来年から全国大会の開催方法が変わり、各ブロックで持ち回りの方法は改めることとなり、開催地の友の会が担当とは限らないため、例年行っている引き継ぎ式は行いませんでした。**

**以下に報告の内容をまとめました。**

**ふうわ・交流の広場**

**ふうわの活動や盲ろう児への理解を深める機会になったと思います。**

**第１分科会**

**全国の盲ろう者の生の声を聞く①、来年の４月から始まる新しい派遣制度について、内容を正しく理解することが大切だと思います。各友の会で学習会安どを開き、周知することも必要でしょう。**

**第２分科会**

**「ふうわと共に　心に寄りそいながら」大人の盲ろう者と先天性盲ろう児・者と共にふれあい、楽しい時間を過ごせたと思います。**

**第３分科会**

**全国の盲ろう者の生の声を聞く②。特にテーマを決めず参加盲ろう者に自由に発言してもらう形式としたことで、参加盲ろう者から様々な意見が出され、盲ろう者の生の声を聞くのテーマにふさわしい内容でした。**

**第４分科会**

**福の島で福をゲット。参加者は４つのブースを回り、県内の産物に触れてもらいました。福島の現状を理解して、福島に訪ねてみたくなるような美味しい物を食べてみたくなる内容でした。**

**第５分科会**

**東日本大震災から考える盲ろう者と防災。震災の被災当事者による貴重な体験談や意見交換を通じて、盲ろう者当事者の生の声を聞き、今後のために良いきっかけになったと思います。**

**第６分科会**

**「楽しく学んで体験しよう！山形の伝統と文化」クイズや花笠作り体験を通して、山形の文化と伝統にふれる機会となりました。**

**開会式**

**約630名参加しました。1部ではそれぞれからいただいたごあいさつの中でこれからの盲ろう者の活動の新しい取り組みや方向が見えてきました。２部では全国の盲ろう者体験作文コンクールの表彰式。青森県で盲ろう者支援会が立ち上げられたこと、オーストラリアから参加された方からの世界会議のＰＲなどがありました。**

**歓迎パーティー**

**今回は、会場とホテルが同じで、周辺にホテルがなかったことから、歓迎パーティーの参加者がとても多かったです。盛大なパーティーでは食事と久しぶりや初めて会う方との交流を楽しみました。**

**社会見学**

**Ａ－２の盛岡手作り村と小岩井農場コースの参加者が３９０人ともっとも人気のあるコースでした。Ｂのわんこそば体験も１４０人の参加と人気があり、岩手ならではの体験ができたと思います。**

**映画上映**

**映画「もうろうをいきる」の上映会、盲ろう者がどういう障害を持っているのか、盲ろう者の日常生活などがわかる内容になっていて、より多くの方に見ていただきたいと感じました。**

**今回は、北海道、東北ブロックの友の会の皆さんに各プログラムの企画をして頂きました。おかげで有意義な3日間を過ごすことができたと思います。今後はブロック形式での企画は見直されることになりますが、来年以降も盲ろう者にとってよい学び、出会い、楽しみな大会になることを期待しています。**

**閉会式の報告**

**委員　　川島　朋亮**

**全体会報告後、大会の締めくくりとして閉会式が行われ、全国盲ろう者協会の山下事務局長、次に大会副実行委員長の早坂さん（みやぎ盲ろう児・者友の会会長）、最後に連絡協議会の高橋会長からそれぞれ挨拶をされました。**

**１．主催者　全国盲ろう者協会事務局長　山下正知さんから**

**・今大会の開催にあたってご尽力された実行委員会の皆様、ご協力いただいたボランティアの皆様などへの感謝と労いの言葉を述べられた。**

**・毎年開催するにつれて参加者数が増えたことで収容できる会場の確保が厳しくなった、大会経費が膨らんできたなどの事情を踏まえて今後の大会運営のあり方を見直すために、協会及び連絡協議会を中心に皆と一緒に意見交換と協議を重ねてきた。**

**・来年度から大会運営のあり方が変わることになったが、事務的な運営は今まで通りに協会が担う。**

**・来年度以降から各ブロックでの実行委員会は開催しないことが決まったが、企画運営は連絡協議会が中心となって進めることになった。**

**２．大会服実行委員長　早坂洋子さんから**

**・２００２年の宮城大会以来、東北地方での開催は１５年ぶり、また北海道・東北ブロックでの開催は７年ぶりとなった。（前回は北海道・札幌開催）**

**・東日本大震災発生から６年になるがまだ復興は途中であること、２０１２年の愛媛大会から一巡で各ブロック順で開催することが決まって、最後の北海道・東北ブロックで果たして開催できるかについて不安があった。**

**・しかし、協会や連絡協議会、地元の皆さんのご協力をいただきながら実行委員会は一同団結して無事大成功に収めることができたことが嬉しかった。**

**３．連絡協議会会長　高橋信行さんから**

**・実に感動的な大会であった。きっと皆さんもそう思っていらっしゃることでしょう。**

**・目と耳の不自由な盲ろう者が生きていくことは本当に大変なことであるが、こうして年に一度、皆で集まることで勇気と希望がわいてくる。我々にとって全国大会はとても大事。**

**・一時は大会の継続が危ぶまれたが、今後も続くことになった。来年は千葉の幕張でお会いしましょう。**

**最後に北海道・東北ブロックの皆さんを初め、大会にご協力いただいた全ての皆さんに感謝申し上げます。**

**以上から、皆１人ひとりの大会への想いが深かったということが伺えました。その上で今大会を大成功に収めたことによってその想いはさらに深まったのではないかと思います。**

**最後に大会の成功を皆で喜び合い、開催にご尽力くださった協会、連絡協議会、実行委員会及びご協力いただいたボランティアなど皆さんに対して、会場から感謝と喜びに満ち溢れた盛大な拍手が贈られ、来年千葉で再び会うことを願いつつ、無事幕を閉じました。**

**４　連絡協議会の活動報告**

**２０１７年２月１６日以降、以下の活動を行いました。**

**２月１９日（日）**

**すまいる「グループホームの完成を祝う会」出席（庵事務局長）**

**３月２２日（水）**

**協会・連絡協議会三役懇談会（高橋会長・大杉副会長・藤鹿副会長・庵事務局長・福島顧問）**

**４月１５日（土）**

**メールマガジン第３３号発行**

**岩手大会第２回実行委員会（藤鹿副会長）**

**６月１５日（木）**

**メールマガジン第３４号発行**

**７月７日（金）**

**平成２９年度第８回体験文コンクール」審査会（関編集担当）**

**７月８日（土）**

**岩手大会第３回実行委員会（藤鹿副会長）**

**連絡協議会役員会（高橋・大杉・庵・関・川島・渡井・小松・福島）**

**８月１８日（金）～２０日（日）**

**岩手大会にて、第１・３分科会「全国の盲ろう者の生の声を聞く」、全体会、閉会式の司会担当**

**９月１５日（金）**

**機関誌第２０号発行**

**その他、内閣府障害者政策委員会、聴覚障害者制度改革推進中央本部、日本障害フォーラム等の各種会議に、盲ろうの代表として全国盲ろう者協会の名前で出席し、意見書提出等に取り組みました。**

**５　連絡協議会加盟団体**

**現在、加盟しているのは、以下の３６団体です。**

**札幌盲ろう者福祉協会**

**岩手盲ろう者友の会**

**山形県盲ろう者友の会**

**栃木盲ろう者友の会「ひばり」**

**ＮＰＯ法人群馬盲ろう者つるの会**

**埼玉盲ろう者友の会**

**ＮＰＯ法人千葉盲ろう者友の会**

**認定ＮＰＯ法人東京盲ろう者友の会**

**神奈川盲ろう者ゆりの会**

**新潟盲ろう者友の会**

**富山盲ろう者友の会**

**石川盲ろう者友の会**

**岐阜盲ろう者友の会**

**静岡盲ろう者友の会**

**愛知盲ろう者友の会**

**三重盲ろう者きらりの会**

**ＮＰＯ法人しが盲ろう者友の会**

**京都盲ろう者ほほえみの会**

**ＮＰＯ法人大阪盲ろう者友の会**

**ＮＰＯ法人視聴覚二重障害者福祉センター「すまいる」**

**ＮＰＯ法人兵庫盲ろう者友の会**

**奈良盲ろう者友の会「やまとの輪」**

**ＮＰＯ法人和歌山盲ろう者友の会**

**岡山盲ろう者友の会**

**広島盲ろう者友の会**

**山口盲ろう者友の会**

**徳島盲ろう者友の会**

**香川盲ろう者友の会**

**ＮＰＯ法人えひめ盲ろう者友の会**

**高知県盲ろう者友の会**

**福岡盲ろう者友の会**

**長崎盲ろう者友の会「あかり」**

**熊本盲ろう者夢の会**

**大分盲ろう者友の会**

**ＮＰＯ法人鹿児島県盲ろう者友の会いぶき**

**沖縄盲ろう者友の会**

**６　編集後記**

**編集担当委員　　関　厚博**

**９月に入り、すごしやすい気温になってきました。それと同時に夕方日が暮れるのが早くなってきて、秋の訪れを感じています。さて、先日岩手県花巻温泉で開催された全国大会では、参加された皆さんお疲れ様でした。西日本の方は交通の便もあまりよくない中でたくさんの方々が参加されていて、有意義な３日間を過ごせました。来年からはブロック形式での開催は改められ、開催地の負担が少なくなるでしょう。どういう形であれ、盲ろう者はお客さんではなく、盲ろう者が主体性をもって開催していくことが望ましいと考えています。**

**ところで、今回は、地元岩手の方々にお世話になったわけですが、緑色のＴシャツを着用していたことが印象的でした。最近友の会でＴシャツを作ろうというところが増えているようで、Ｔシャツブームと言えそうです。私が所属している神奈川のゆりの会では、Ｔシャツではなくてポロシャツを作りました。残念ながら今回の大会には間に合いませんでしたが、来年の全国大会では着用していけるので、ぜひ見てください。背中の文字やイラストは浮き出ていて、手で触ってみてわかるようになっています。**

**さて、機関誌２０号はいかがでしたか？次回は、１０月にメルマガを発行予定です。お楽しみに！**